

第11章

女性アーカイブセンター 10周年

細川 芽

1 はじめに

国立女性教育会館（以下、NWEC）の女性アーカイブセンターは平成20年6月に開設され今年で10周年を迎える。男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性や女性団体の資料を女性アーカイブとして集積し提供することで、過去において男女共同参画を推進してきた女性の生き方や行動、女性の活動・運動、女性政策・施策、そして女性の学習活動が明らかとなる。今後の男女共同参画社会を推進するためにはそれらを知ることが必要不可欠である。10周年の節目にあたり、女性アーカイブセンターの開設の経緯ならびに開設されてからの10年を振り返る。

2 開設までの経緯

平成17年6月、NWECは真に担うべき役割を明らかにした「独立行政法人国立女性教育会館の将来ビジョン」を提示し、その中で重点化事業の1つとして女性アーカイブの構築を行うことを掲げた。アーカイブとは記録資料またはそれを保存・提供する施設を意味するが、過去において男女共同参画を推進してきた女性の生き方や行動、女性の活動・運動、女性政策・施策、そして女性の学習活動について知るために積極的・総合的に資料を収集・整

理・提供する“女性アーカイブセンター”を設立することとした。

その準備として女性アーカイブの機能、女性に関わる資・史料、記録文書の収集・整理・保存・提供及びデジタルアーカイブの構築についてその方針と方法を明らかにするため、関連分野の研究者・実務者、女性関連施設関係者等によるプロジェクトチームを設置し、平成17年～18年度の2年計画で調査研究を行った。

調査研究の内容は以下のとおりである。

【平成17年度（第1年次）】

- 1) 女性アーカイブのコンセプト、収集範囲・対象等についての検討
- 2) 「女性関係資・史料の所蔵に関する調査」の実施
3,185機関を対象（回答率60%）
- 3) 海外女性アーカイブ事例調査
オランダのInternational Information Centre and Archives for the Women's Movement (IIAV)

【平成18年度（第2年次）】

- 1) NWEC所蔵女性関係資料の試験的整理
- 2) 所蔵資料の保存・電子化の検討と試験的入力
- 3) 女性デジタルアーカイブシステムの開発
- 4) 資料収集の方針・範囲についての検討
「収集の基準（案）」作成
- 5) 既存アーカイブの調査
視察、ヒアリング

この調査研究を受けてNWECにおける女性アーカイブ構築の基本理念・目的、利用者、機能は以下のように定められた。

1) 基本理念・目的

男女共同参画社会の実現は21世紀の国の重要課題であり、法律・制度面の整備も進みつつある。しかし、依然として女性が個性や能力を発揮す

る機会や可能性が限定されるなど、意思決定レベルへの女性の参画やキャリア選択幅の広がりには、まだ少ない状況にある。

その原因を探り、解決方法を見いだすためには、現在の女性の地位・状況がどのように形成されたかを歴史的事実に基づいて検証し、次世代の女性に何を引き継ぎ、今後さらに何をめざしてゆくべきか、を検証する必要がある。つまり、歴史を学び、女性の地位向上の歩みをたどることが、男女共同参画社会の実現に不可欠な条件である。

しかし、オランダのIIAVのような例がある欧米等に比べ、日本では女性に関する研究の基盤となるジェンダーの視点で女性を捉えた資料の蓄積・提供が極めて不十分な状況にある。また、市町村合併、各種女性団体メンバーの高齢化等による女性研究に必要な資料の廃棄・逸脱、さらには経年による資料の劣化が今日では深刻となっており、その対応は緊急を要する課題となっている。そのためには、統一的・総合的にジェンダーの視点に立って資料を収集・整理し、電子化により保存・提供する女性アーカイブの構築は必要不可欠である。

以上のような状況から、NWECにおいて女性アーカイブを構築し、関係機関と連携協力を図りながら、男女共同参画社会の推進に関する意識の啓発、調査研究、学習支援を推進する。

2) 利用者

主に以下のような利用者が想定される。

女性教育・女性史等の研究者、女性史サークルとそのメンバー、政策・立案等に携わる行政関係者、女性団体・グループ関係者、学生、メディア関係者、映像制作者・演劇関係者、民間企業のマーケットリサーチャー、法律関係者、教育関係者、図書館・文書館関係者、資料寄贈者等関係者

3) 機能

後述する収集基準に基づいて資料を収集し、整理・保存しインターネットによる提供も含め、提供・公開する。また収集資料を基に女性史・女性政策・女性問題等に関する調査・研究を行うとともに、資料を活用した情

報リテラシー・学習支援・プログラム開発についても研究を行う。地方における女性アーカイブ構築を促進するため、NWECにおける女性アーカイブ構築のノウハウを基に、資料の保存、電子化、目録データベース作成等に関する助言・指導・研修等を行う。

また資料収集基準は以下のように定められた。

1) 分野

- ①女性（婦人）教育
- ②女性問題、女性労働、女性運動、女性政策
- ③女性関係団体・機関
- ④女性史編纂関連資料
- ⑤国立女性教育会館に関わる資料

2) 時代

原則として、明治時代以降に作成されたものとし、当面、「国連女性の十年」（1976～1985年）までの時代に重点を置く。

これは主に以下の理由による。

- ・現在の女性の地位・状況がどのように形成されたかを歴史的に跡づけるうえで特に重要なのは直近の過去であり、公教育や家族制度の関わる法制度が近代国家として整備され始めた明治期以降である。
- ・女性の歴史を概観すると、女性の地位向上に向けての重点的な取組が国内外で行われた「国際女性年」及び「国連女性の十年」（1975年～1985年）の頃が1つのエポックコア的な時期である。
- ・資料保存の観点から、江戸時代以前の和紙に比べ、明治期以降の洋紙、特に終戦直後の紙の劣化が激しく、その劣化防止・保存対策が急務である。

3) 地域

原則として、全国的に影響を持った事例に関わる資料を主に収集することとし、特定の地域・地方にのみ関わる資料は収集対象としない。ただし、

当該の地域・地方に適切な保存・公開を行える機関がないと判断され、かつ、歴史的資料として重要なものは収集対象とすることもあった。

これは、資料収集の原則である「現地保存」、つまり“地域で発生したものは地域で収集・保存”の原則によるものであり、地域で発生したものは、地域的・時代的背景を備えた場所で収集・保存・提供してこそその資料がより活かされる、という観点に基づく。ただし、地域・地方に適切な保存・公開を行える機関がない事例が増えており、今後ますますNWECの役割は重要になっていくと考えられる。

4) 形態

- ①原則として、非刊行の公私の記録・文書（刊行物についても、希少なものは対象）
- ②写真、ポスター、チラシ、音声記録、映像記録等の紙媒体以外の記録
- ③上記以外のもので、歴史資料として重要なもの

女性アーカイブセンターにて収集する資料の受入可否は、この資料収集基準に照らし合わせ、女性学、歴史学、アーカイブズ学等の分野において高い見識を有する委員で構成された女性アーカイブセンター資料選定委員会にて決定している。

3 収集資料

女性アーカイブセンターの収集資料点数は13,000点を超えている（平成29年度末現在）。

女性アーカイブセンター設立当時はまだ公文書法は存在していなかったが、収集資料はほぼ私文書となっている。その収集資料について資料群ごとに紹介する。なお資料群とは、検索しやすくするため、寄贈者毎にその内容からグループ化し体系的に整理したものである。

●資料群1「国立婦人教育会館設立関係資料」

志熊敦子氏（元・文部省婦人教育課長／国立婦人教育会館2代目館長）を通じて入手。日本で唯一の女性教育に関する国立機関誕生に関する資料。国立婦人教育会館設立に際しての事務文書、図面など87点。展示については後述するが、平成29年度に行った特別展示「国立女性教育会館開館40周年展」においてはこの資料群から多くの資料を展示した。

●資料群2「稲取婦人学級資料」

塩ハマ子氏（戦後の文部省婦人教育課長）収集、塩氏の関係者より寄贈。文部省が昭和29年度から昭和31年度にかけて実施した稲取実験婦人学級に関する資料。この実験学級から、全国の婦人学級に話し合い学習の手法が普及した。学級生による学習記録の綴り、学習成果発表資料など79点。過去の所蔵展示や平成30年度に行った特別展示「女性アーカイブセンター10周年展」においてはこの資料群から多くの資料を展示した。

●資料群3「第4回世界女性会議NGOフォーラム北京'95：国立婦人教育会館特別展示」

平成7年8月～9月、中国の北京で第4回世界女性会議（北京会議）及びNGOフォーラム北京'95が行われ、これを記念して後にNWECで特別展示を開催した。その折、各都道府県・政令指定都市教育委員会、女性問題担当部局及びNGOフォーラム北京'95参加民間団体から、多数のポスター、会議資料等をNWECに寄贈いただいた資料の一部が本コレクションである。ポスター、会議・フォーラムでの配布資料、写真など48点。平成27年度に行った北京+20の展示や、平成30年度に行った特別展示「女性アーカイブセンター10周年展」においてはこの資料群から多くの資料を展示した。

●資料群4「国際婦人年記念切手・バッジ」

平成12年、NWECで開催した特別展示の際、縫田曄子氏（国立婦人教育会館初代館長）より寄贈。国際連合が、国連憲章、世界人権宣言の趣旨に基づき、1975年を国際婦人年と定め、男女平等の促進等の目標を達成するため、集中的な行動を行う年とした。その記念のグッズ、記念バッジ、各国で発行された記念切手8点。

●資料群5「文部省研究社会学級」

塩ハマ子氏より寄贈。資料群2「稲取婦人学級資料」以外の、実験学級に関する資料。稲取婦人学級資料のようにまとめた量はないが、各地の婦人学級の様子が分かるものとなっている。婦人学級のプログラム、学級だより、活動報告2点。

●資料群6「海外婦人教育視察写真」

志熊敦子氏を通じて入手。文部省が昭和35年度から行っていた助成「社会教育指導者（婦人教育指導者）海外派遣事業」で派遣された海外婦人教育視察団が各国を訪れた際の写真21点。

●資料群7「塩文庫婦人教育課関係事務文書」

塩ハマ子氏より寄贈。1950～60年代の文部省婦人教育課取扱い関係資料。主として婦人学級関係。事務文書、名簿、婦人教育関連の特集が組まれた雑誌など114点。

●資料群8「ベティ・フリーダン写真・サイン」

中村道子氏（国連NGO国内婦人委員会会員 女性差別撤廃条約批准に尽力）より寄贈。昭和60年第3回世界女性会議（ナイロビ会議）の際、ベティ・フリーダン氏（米国の女性運動家）から中村道子氏に贈られた写真・サインと新聞切り抜き3点。

●資料群9「金子てい綴り」

金子てい氏（初代文部省婦人教育課長）寄贈。1950年代の文部省婦人教育課取扱い関係資料。主に婦人教育・婦人学級関係。事務文書、手書きメモ、名簿81点。

●資料群10「昭和二十四年度婦人団体概況調査」

文部省が行った婦人団体の現況調査への、各県の回答文書調査票含め48点。

●資料群11「成人教育、婦人団体、PTAに関する事項調査他」

塩ハマ子氏寄贈。1950年代の文部省取扱い関係資料。主に文部省が行った各県の社会教育（成人教育・婦人団体・PTA）調査関係資料。事務文書、各県の調査用紙11点。

●資料群12「全国婦人新聞社取材写真コレクション」

平成18年に休刊となった全国婦人新聞社より寄贈。女性の立場から報道する女性問題専門紙『女性ニュース』（旧『全国婦人新聞』 全国婦人新聞社発行）の昭和55～平成18年の取材写真、プリント、ネガフィルム、新聞原紙等3,241点。過去の所蔵展示や平成30年度に行った特別展示「女性アーカイブセンター10周年展」においてはこの資料群から多くの資料を展示した。

●資料群13「日本キリスト教婦人矯風会資料（売春防止法関係）」

売春防止法制定前の昭和26年頃から、売買春問題ととりくむ会が発足する直前の昭和47年頃までの、主として売春防止法制定に関する資料。日本キリスト教婦人矯風会の性・人権部（昭和60年までは「純潔部」）が保管してきたものと思われる。とりくむ会事務局長で、矯風会の前会長であった高橋喜久江氏により寄贈。売春防止法関係の要望書、書簡、チラシ、ポスター、新聞、パンフレットなど131点。

●資料群14「奥むめおコレクション」

奥むめお氏（女性運動家、主婦連合会初代会長）ご息女中村紀伊氏より寄贈。戦前・戦中・戦後を通して暮らしに根づいた女性運動を展開した奥氏に関する資料。主に、戦後、奥氏が会長を務めた主婦連合会に関するもの。平成28年の中村氏逝去後、主婦連合会より追加資料が寄贈された。文書、新聞記事、雑誌、アルバム、主婦連合会等の活動を記録した動画、ポスター、おしゃもじ運動に使用したしゃもじなど。過去の所蔵展示や平成30年度に行った特別展示「女性アーカイブセンター10周年展」においてはこの資料群から多くの資料を展示した。

●資料群15「丹波船井生活改善グループ活動資料」

草川八重子氏（作家）、高屋恵利子氏（元生活改良普及員）より寄贈。丹波船井生活改善グループ（京都府丹後地域で30余年活動し、生活改善を女性の自立、地域における女性の地位の向上につないだ）の活動記録。学習記録、グループだよりの原稿、グループメンバーへのインタビューの録音テープ・録画ビデオ32点。

●資料群16「犯罪防止及び犯罪者処遇に関する第2回国連アジア極東地域会議関係資料」

「売買春ととりくむ会」及び「日本キリスト教矯風会」より寄贈。昭和32年に開かれた「犯罪防止及び犯罪者処遇に関する第2回国連アジア極東地域会議」の資料。この時の日本のナショナル・ステートメントは、人身売買、売春、少年非行に関するもの。会議配布資料94点。

●資料群17「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議資料（飯島愛子旧蔵）」

お茶の水女子大学ジェンダー研究センターに保管されていた飯島愛子氏（女性運動家、侵略＝差別と闘うアジア婦人会議 発起人）旧蔵の資料。「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議」（以下、アジア婦人会議）は、昭和45年8月に開催された大会の名称であり、9月に個人参加の運動体として発足した。飯島愛子（1932～2005）は大会発起人の1人で、昭和49年まで専任事務従事者を務めた。本資料は約10年間の1970年代女性解放運動の記録である。手書き原稿、雑誌、侵略＝差別と闘うアジア婦人会議関連会報など82点。

●資料群18「塩ハマ子・春秋会コレクション」

塩ハマ子氏寄贈。塩ハマ子氏と、春秋会（昭和30年頃、文部省と地方教育委員会で婦人教育の条件整備に関わったメンバーが自主的に結成したグループ）が所蔵・収集した文部省、地方公共団体、婦人団体などの婦人教育の基礎資料。婦人団体のしおり、社会教育、婦人学級に関する報告書、メモなど約1,000点。平成22年度の所蔵展示にてこの資料群から多くの資料を展示した。

●資料群19「松尾須磨資料」

松尾須磨氏ご息女安藤風子氏より寄贈。津田塾大学の前身である津田英学塾に学んだ松尾須磨氏（1913～2006）が、在学中に使用していた1930年代の英語の教科書、手書きノートなど37点。

●資料群20「栗田政子資料」

学習院女学校に学んだ栗田政子（生没年不詳）が、明治45年、第一学年の折に書いた夏休みの絵日記1冊。長野県在住の上條徳治氏より寄贈。栗田政子は徳治氏の父の弟である上條卯作氏の妻。生没年、家系等不詳。平成30

年度に行った明治150年関連施策ミニ展示「明治時代の女性教育」にて展示。

●資料群21「和田典子資料」

和田典子資料保存委員会より寄贈。男女ともに学ぶ家庭科と、男女平等な社会の実現に生涯を捧げた和田典子氏の活動記録・著作等の資料。「家庭科教育研究者連盟」「家庭科の男女共修をすすめる会」「男女平等をすすめる教育全国ネットワーク」などの資料が含まれている。平成25年度の所蔵展示にてこの資料群から多くの資料を展示した。

●資料群22「西澤百枝資料」

西澤百枝氏ご息女小林富子氏より寄贈。東京助医女学校で学び、故郷の長野県北安曇郡小谷村で助産婦を開業した西澤百枝氏（1904～1994）が使用した東京助医女学校時代の大正11年頃の産婆学の教科書、東京助医女学校卒業アルバム、戦前～前後の各種委員の委嘱状、手帳など61点。

●資料群23「志熊敦子資料」

志熊氏より寄贈。婦人教育関係会議資料。婦人教育関係会議資料、雑誌コピー、新聞切り抜き、フロッピーディスクなど193点。平成28年度に資料追加受入あり。

●資料群24「国際婦人年切手アルバム」

宮野禮一氏（元・文部省社会教育局長）より寄贈。1975年の国際婦人年にあたって世界各国で発行された記念切手を収集したアルバム。

●資料群25「森山眞弓資料」

内閣官房長官や文部大臣等を歴任した政治家の森山眞弓氏より寄贈。第1回世界女性会議（メキシコ会議）出席時の会議資料や写真などを中心とした資料。

●資料群26「第3回世界女性会議関係資料」

ドーンセンター情報ライブラリーより寄贈。大阪府立婦人会館時代から引き継いで保管していた資料。会議配布資料10点。

●資料群27「奥村祥子世界女性会議資料」

奥村祥子氏より寄贈。奥村氏が平成7年の北京会議（NGOフォーラム）に

参加したときに、現地で集めた資料。北京会議特集号と思われる中国語の新聞、英語の新聞など86点。

●資料群28「礒部幸江資料」

「家庭科の男女共修をすすめる会」の世話人を務めた礒部氏より寄贈。「すすめる会」の活動に関する資料。リーフレット、新聞記事、写真など39点。

●資料群29「婦人学級関係資料」

平成18年、情報課事務室片付けの際、封筒に入った状態で発見された。婦人教育研究所発行の婦人学級テキスト、婦人学級関係写真。文書、写真246点。

●資料群30「第4回世界女性会議'95（北京会議）」

平成7年に開催された第4回世界女性会議（北京会議）に関する資料。資料群3は会館での展示に使用した資料であるため、平成29年に新規で資料群を作成し、今後北京会議に関する資料が寄贈された場合は一括して資料群30に入れることとした。

●資料群31「九重年支子資料」

坂野浦子氏（九重年支子氏ご息女）、資料管理者山辺恵巳子氏より寄贈。手織機の発明家であり起業家であった九重氏の手織機や作品、九重織カリキュラム帳、新聞記事、図書、写真など。平成30年度に行った特別展示「女性アーカイブセンター10周年展」においてはこの資料群から資料を展示した。

●資料群32「中村喜美子資料」

中村喜美子氏より寄贈。中村氏が使用した家計簿及び横浜生協（現・ユーコープ）での家計簿運動に関する資料。昭和29年から平成21年までの家計簿、生協の委員会だより、新聞切り抜きなど85点。平成30年度に行った特別展示「女性アーカイブセンター10周年展」においてこの資料群から資料を展示した。

●資料群33「縫田曄子資料」

東京ウィメンズプラザより寄贈。NHKで女性初の解説委員であった縫田氏が、NHK時代に企画した番組台本、新聞切り抜きなど。

●資料群34「日本女性学習財団資料」

日本女性学習財団より寄贈。昭和12年に日本女子会館として設立されて以来撮影された、関連人物や建物、集会等の写真・アルバム等。

●資料群35「女性解放をめぐる占領政策インタビュー資料」

上村千賀子氏（元・NWEC情報課長／群馬大学名誉教授）より寄贈。1990年代前半にGHQ関係者のアメリカ人及び日本人女性にインタビューした際の映像・音声資料。デジタル化データ26点。

その他これから受け入れる資料として、GHQ民政局のスタッフとして22歳の若さで日本国憲法の人権条項の草案作成に携わったベアテ・シロタ・ゴードン氏の資料を予定している。GHQ時代の写真や、日本でのベアテ氏講演記録などである。

奥むめおコレクション

稲取婦人学級資料



4 女性デジタルアーカイブシステム

NWECでは、女性アーカイブの目録や画像データの管理・運用、またイ

ンターネットを介してデジタルアーカイブを提供するために、女性デジタルアーカイブシステムを設計・開発した。http://w-archive.nwec.jp/il/meta_pub/G0000337warchive

システムの特徴としては、資料の受入からインターネットでの公開までの一連の作業をサポートするシステムであることが挙げられる。そのためデータベース項目には、利用者への公開項目だけでなく、アーカイブ資料に特有の管理項目が含まれている。また、NWECが保有する「女性情報シソーラス」の活用や「女性情報ポータルWinet」との連携を考慮した項目も含まれている。

データ構造上の特徴としては、資料の属性を記述する上で階層構造（資料群－小資料群－件名）をとることである。データ構造を階層構造としたのは、資料の受入作業段階での作業工程との整合性、データの参照・閲覧段階での多様な検索方法の実装を実現するためである。

システムの基本仕様

1) データ登録機能

- ①ログイン機能
- ②登録方法選択・編集対象選択
- ③データ登録・確認
- ④データ公開

2) データ検索・閲覧機能

- ・年表検索
- ・キーワード検索（簡易、詳細）
- ・資料群一覧検索
- ・資料種別検索
- ・原資料の利用検索
- ・資料群の分野検索
- ・閲覧機能

直接NWECに来館しなくてもWeb上で女性アーカイブの目録や画像データを見ることが可能であるため、女性デジタルアーカイブシステムの需要は大きく平成29年度は年間75,620件のアクセス件数を記録した。今後もデジタル化件数を増やしていきたいがシステムを運用している中で一番の課題は、「目録データ、原資料、画像の公開可否、利用条件の最終決定」に予想以上の時間を費やしている点である。近現代のアーカイブ資料は、個人情報を含むものが多く、公開は慎重にならざるを得ない。また、電子化された画像は、個人情報にかかわる部分だけをマスキングして公開することが可能だが、著作権者から電子化の許諾が得られなかった場合、原資料の公開（閲覧）も持ち合わせざるを得ないものがある。

アーカイブ資料は、図書・雑誌のような刊行物と異なり、1点ずつ固有の問題を有しているため、公開に際して一律の取り扱いができない。個別の資料の特性に向き合い、問題を解決していく姿勢が必要である。



NWEC 災害復興支援女性アーカイブ http://w-archive.nwec.jp/il/meta_pub/G0000337wd

NWEC 災害復興支援女性アーカイブは、NWECと全国の女性関連施設等が連携して構築する、女性の視点からの災害復興支援活動の記録である。このデータベースはNWECがデータベースシステムを提供し、女性関連施設等参加機関がデータを登録して構築をしている。

現在の参加機関はNPO法人フォトボイス・プロジェクト、公益財団法人日本女性学習財団、埼玉県男女共同参画推進センター、東京都大田区立男女

平等推進センター「エセナおおた」、男女共同参画と災害・復興ネットワーク、福島県男女共生センター、青森県男女共同参画センター、静岡市女性会館である。国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」からも検索可能となっている。



5 展示

本館 3 階に女性アーカイブセンター閲覧室があるが、閉架式であり気軽に資料を閲覧することは難しい。そのため本館 1 階に展示室を設け、誰でも気軽に入りアーカイブセンターの貴重な資料を閲覧できるようにしている。

アーカイブセンターの所蔵資料を展示する「所蔵展示」と、複数の他機関から資料を借用してテーマを決めて展示する「企画展示」をはほぼ半年ごとに交代で実施している。所蔵展示は展示開始初期においては特にテーマを決めず所蔵している資料を展示していたが、最近は所蔵展示もテーマを決めてテーマに合わせた展示を行っている。また展示に合わせたイベントも随時行っている。

女性アーカイブセンターの収集対象となっている資料は、世間一般誰もが知っている有名な出来事や有名人の資料とは違うため、一般の人に興味を持って展示室に足を運んでもらうにはどうすれば良いか、担当者はいつも頭を悩ませている。過去に行った展示及び関連イベントは以下のとおりである。

Ⅲ NWEC 実践報告

平成20年度：所蔵展示、企画展示「女性の高等教育の黎明」（実践女子大学、津田塾大学、東京女子医科大学、日本女子体育大学、女子栄養大学）

平成21年度：所蔵展示、企画展示「女性科学者の誕生」（丹下ウメ、保井コノ、黒田チカ、辻村みちよ、鈴木ひでる）

平成22年度：所蔵展示、企画展示「女性の実業教育のはじまり」

平成23年度：所蔵展示（平塚らいてう関連資料中心）、企画展示「化学と歩む」

平成24年度：所蔵展示、企画展示「建築と歩む」

平成25年度：所蔵展示、企画展示「音楽と歩む」

連動企画：中田真理子氏コンサート&トーク「ファニー・ヘンゼル＝メンデルスゾーンへの愛知られざるファニーの作品とともに」

小林緑氏レクチャー「フランスの多彩な女性作曲家たちを知る」

徳山美奈子氏コンサート「音楽の庭へようこそ
花、蝶、魚、鳥、そして子ども達へ」

平成26年度：所蔵展示「喜美子さんの家計簿」、企画展示「映画と歩む」

連動企画：松井久子監督トーク&『レオニー（海外版）』上映会

「毎日がアルツハイマー2」上映会＋関口祐加監督トーク

平成27年度：所蔵展示「男女雇用機会均等法から30年」、企画展示「宇宙をめざす」

連動企画：向井万起男氏講演会「空と宇宙を飛んだ女性たち」

平成28年度：企画展示「寄席で演じる」、連動企画：「神田鯉栄 お話と講談の会」

平成29年度：特別展示「国立女性教育会館開館40周年展」

平成30年度：特別展示「女性の歩みを受け継ぐ 女性アーカイブセンター
10周年展」

企画展示「鉄道と女性展 鉄道を動かし、社会を動かす」

アーカイブセンター 10周年展

国立女性教育会館40周年展展示資料



展示において作成したパネルはNWECリポジトリにて公開を行っている。

<https://nwec.repo.nii.ac.jp/>

またパネルは機関への貸出も行っており、全国の男女共同参画センターや図書館で利用されている。平成28年度は13機関、平成29年度は16機関に貸出を行った。特に平成27年度所蔵展示「男女雇用機会均等法から30年」のパネル貸出依頼が多くなっている。



6 研修

NWECでは女性の歴史を今に生かし未来につないでいくために、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の保存と活用に取り組んでいる。その活動の一環として、女性関連施設職員、図書館の実務担当者、地域女性史編纂関係者等を対象に、アーカイブの保存や整理についての新しい情報やこれから業務に取り組むために必要な情報の提供を目的として、平成21年度からアーカイブ関連の研修を実施している。

平成21、22年度は「女性情報アーキビスト入門講座」という名称で実施、平成23年度は「女性情報アーキビスト養成研修（入門）」という名称で実施している。平成24年度以降は「女性情報アーキビスト養成研修（入門）＋（実技コース）」とコースが2種類となり現在の研修に近い形となっているが、名称については平成28年度より「アーカイブ保存修復研修（基礎コース）＋（実技コース）」となり、研修名には直接女性情報という言葉が入らなくなった。その理由は女性情報という言葉が研修名に入っていると、言葉を聞きなれない人が受講を敬遠してしまうためというのが主な理由である。ただし、研修の名称は一般的な言葉に変更しても、中身には女性アーカイブの保存と活用に関する講義をしっかりと盛り込み、NWECならではの研修内容である。

会場は平成28年度の基礎コースを実験的に東京で開催した以外はすべてNWECで行っている。定員は基礎コースが30名、実技コースが10名から20名となっている。

基礎コースは座学形式で女性アーカイブの概論、アーカイブの活用事例の紹介、アーカイブのデジタル化、アーカイブと著作権、資料の保存について、などとなっており、講師はNWEC職員の他、アーカイブを専門とした大学教員、アーカイブを取り扱っている施設の職員や女性団体の方などである。

実技コースは実際に受講者に手を動かしてもらい、資料の修復実習を行っている。こちらの講師は主に資料の修復を専門に行っている会社に

お願いしている。

今後も研修を通してアーカイブを保存して活用してもらうことの重要性、保存技術や活用方法について広めていきたいと考えている。

7 今後の課題

1) 広報

広くアーカイブを活用してもらうには、まず女性アーカイブや女性アーカイブセンターの存在を含めた幅広い広報が必要である。現在展示や展示に関連するイベントを行ってはいるが、あらゆるツールを使って魅力的・効果的な広報実践が課題である。

2) 継続的な資料収集と専門的な資料分析

女性アーカイブセンターは女性の歴史を後世に伝える上で、資料的価値、利用価値のある資料を継続的に収集していく専門施設である。そのためには資料所在調査・内容調査・分析・まとめのできる専門的な知識を持つ職員が配置される必要がある。現在は情報センター担当の司書が兼任して業務を行っており、全国各地に散らばっていると思われる女性アーカイブの情報の入手や、受け入れた資料の価値の分析を行うことが難しい状況となっている。

3) 資料の修復・保存への対応

現在収集対象としている資料の中には劣化、破損が進んでいるものが多い。適切な整理方法や保存対策が必要である。デジタルアーカイブシステムの中に保存されている電子媒体のコンテンツは定期的に新しい媒体へ転換することも視野に入れておかなければならない。また、地震等の災害に対応した保存環境の整備も必要である。

4) 全国の女性関係資料の構築支援

平成17年度に行った「女性関係資料・史料の所蔵に関する調査」で、全国の440機関が資料を所蔵しており、その多くが目録等の所在情報が未整

Ⅲ NWEC 実践報告

備の状況であることが明らかとなっている。ナショナルセンターとして NWEC は地域における女性アーカイブの構築・充実を支援し、場合によっては貴重な資料が散逸しないように女性アーカイブセンターにて資料を受け入れることも考える必要がある。

参考文献

国立女性教育会館 2007『女性アーカイブセンター機能に関する調査研究報告書』

江川和子他 2008「国立女性教育会館女性デジタルアーカイブシステムの公開に関する研究」『年会論文集』24 日本教育情報学会 pp.74-77

(ほそかわ・めぐむ 国立女性教育会館情報課長)